

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	地域農畜産物の物語づくり事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	産業経済部	課等名	農業課		包含する細々目	1	6	1	4	33	1	300	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり												
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条例等				地域経済活性化プログラム2007			
		事業期間	18年度	～	19年度								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	地域農畜産物	主要品目数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	7
			7			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	付加価値を高める		18目標	最終目標		
			18実績	19目標		↑
		23目標	23実績		最終目標達成年度	
		18目標	最終目標			
		18実績	19目標		↑	
		23目標	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	都市部の消費者や若年者の中には、農産物を無機質な「商品」としてとらえ、価格や見た目のよさを選択基準にしている層が多い。また、農産物流通事業者の中にも、こういった傾向が見え始めている。南信州いいだの農畜産物は、固有の気候、地形、土壌条件、更には農業者の技術や智恵、良質なものを消費者に食してもらいたいという思いが凝縮された「生き物」である。農産物を「食(FOOD)=風土」としてとらえなおしたストーリー集を作成し、農産物の販路開拓の際のプロモーション・ツールとしての活用を図るとともに、ホームページ上で情報発信する。	18年度の実績 ・農業生産団体と連携してストーリー集の作成委員会を開催した。 ・市田柿、南水のPRツールの作成 ・ストーリー集の販売促進フェア、生産組織の商談等での活用。	作成会議(回) 活用回数(回)	3 5
	19年度計画 ・果実、野菜、畜産物、菌茸等のストーリー集の作成。 ・ホームページの作成。 ・ストーリー集を、引き続き農産物の商談、販促PR、消費者懇談会、産地ツアー等でのプロモーション・ツールとして活用。」	作成会議(回) ホームページ作成(式) 活用回数(回)	3 1 5	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	800	300
	事業費計(A)	800	300
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,000	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	7,152	0
	トータルコストA+B	7,952	300

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額等を高める活動をする	既存農業者の産出額(農業):億円	現状値	119.3	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	139.1
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

<p>この事業を開始したきっかけ</p> <p>・経済自立度アップのための地域経済活性化プログラムの具体化。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化</p> <p>・農産物の価格低迷が慢性化してきている現状においては、従来の価格や規格と異なる差別化基準を産地自らがつくりあげ、販路開拓のための積極的なプロモーション活動をしていくが必要になっている。</p> <p>・各農協における17年産農産物の販売状況は、果実、野菜、菌茸を中心に販売単価の低迷が顕著であった。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見</p>
--	--	-----------------------

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	<p>(評価) (その理由)</p> <p>価格競争に飲み込まれない産地づくりには、地域農産物の特徴づけ(個性化)が不可欠であり、このことが地域全体の農業生産額の拡大に結びつく。</p>	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	<p>(評価) 余地がある (その理由)</p> <p>ストーリーの活用方法を工夫・拡大することで成果を更に向上させることができる。</p>
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p>		廃止・休止した場合の影響はありますか？	<p>(評価) 影響あり (その理由)</p> <p>地域農産物の(特徴)個性が曖昧なままとり、販売額及び生産額の縮小に歯止めがかからない状態が続く。</p>
	意図の見直しの必要性はありますか？	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p> <p>農産物の商品価値を消費者に理解してもらうためには、物語性をもったプロモーションが不可欠である。</p>		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	<p>(評価) 関連事業あり (類似事業名、理由)</p> <p>地域農業経済拡大プロジェクト事業</p>
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	<p>(評価) 必要ある (その理由)</p> <p>地域農産物の総体的な販路開拓、販売拡大を目的としたプロモーション・ツールの作成事業であり、情報収集や広報面で行政が関与することの意義は大きい。</p>		効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	<p>(評価) 不可能 (その理由)</p> <p>予算節減を考慮した最低限の予算計上である。</p>
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由)</p> <p>一義的な受益者は農業者であるが、地域のイメージアップ戦略につながるため市民全体が受益者にもなる。</p>

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止</p> <p><input type="checkbox"/> 休止</p> <p><input type="checkbox"/> 目的見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 別事業に統合</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度</p> <p>具体化</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>平成19年度中にPR効果の高いツール作成とHP作成を行い、マーケティング活動に活用する。</p>
---	---

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	